

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年12月13日
【四半期会計期間】	第21期第2四半期(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)
【会社名】	株式会社ビューティガレッジ
【英訳名】	BEAUTY GARAGE Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO兼COO 野村 秀輝
【本店の所在の場所】	東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号
【電話番号】	03 - 6805 - 9785
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理グループ統括 齋藤 高広
【最寄りの連絡場所】	東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号
【電話番号】	03 - 6805 - 9785
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理グループ統括 齋藤 高広
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第2四半期 連結累計期間	第21期 第2四半期 連結累計期間	第20期
会計期間	自 2021年5月1日 至 2021年10月31日	自 2022年5月1日 至 2022年10月31日	自 2021年5月1日 至 2022年4月30日
売上高 (百万円)	11,475	12,644	23,401
経常利益 (百万円)	583	511	1,215
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	323	348	709
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	342	368	747
純資産額 (百万円)	5,056	5,746	5,468
総資産額 (百万円)	10,562	10,655	10,548
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	51.35	55.23	112.63
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.2	51.9	50.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	193	22	712
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	276	61	439
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	45	426	188
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,536	2,297	2,670

回次	第20期 第2四半期 連結会計期間	第21期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年8月1日 至 2021年10月31日	自 2022年8月1日 至 2022年10月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	24.65	23.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着きを見せつつあるものの、各種原材料価格・輸送費の高騰、円安の更なる進行等により、厳しい経済環境で推移致しました。

美容サロン業界におきましては、3月の行動制限解除以降、来店客数の増加や顧客単価の上昇など、徐々にではありますが回復基調となっておりあります。

そのような状況下、当社グループでは円安の更なる進行に伴う海外からの仕入れコストの増大等が経営成績に一定の影響を及ぼしておりますが、そうした中でも競争力強化と市場シェア獲得のために、商品ラインナップの拡充、利便性の向上、ITシステム投資、広告プロモーション強化などに取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は12,644,593千円（前年同期比10.2%増）、売上総利益は3,216,403千円（前年同期比5.0%増）、営業利益は509,860千円（前年同期比13.0%減）、経常利益は511,580千円（前年同期比12.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は348,655千円（前年同期比7.8%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### 物販事業

物販事業におきましては、インターネット通販サイト「BEAUTYGARAGE Online Shop」、全国主要都市のショールーム&ストア+法人営業チーム、カタログ通販誌「BG STYLE」および各グループ会社を通して、理美容機器や化粧品・消耗品等のプロ向け美容商材を、国内外の理美容室、エステサロン、リラクゼーションサロン、ネイルサロン、アィラッシュサロン、フリーランスのビューティシャン向けに提供しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、引き続きECサイトのUI/UXの着実な改善と進化を継続することに加えて、取り扱いブランドの拡充を推進し、美容商材流通のプラットフォームとしての役割強化に注力してまいりました。また、国内最大級のネイル展示会（東京ネイルエキスポ2022）への出展、ECサイトとの連動を意識したカタログ3種の発刊、WEB広告の強化など、販促活動にも力を入れてきました。KPIとしては、美容サロンによる当社ECサイト継続利用が増えており、ロイヤルユーザー数、注文件数、PV・アクセス数・UUが大きく増加致しました。一方で、引き続き円安の進行および原材料・輸送費高騰による原価率の上昇という課題にも直面しておりますが、価格転嫁の適宜実施とスケールメリットの創出・販管費の圧縮等によって利益率の低下抑制に努めております。

この結果、物販事業全体としての売上高は10,403,972千円（前年同期比16.1%増）、セグメント利益は460,341千円（前年同期比1.6%増）となりました。

#### 店舗設計事業

店舗設計事業におきましては、連結子会社である株式会社タフデザインプロダクトにより、東京・金沢・名古屋・大阪・福岡の5拠点において店舗設計・工事施工管理を提供しております。トレンドを捉えたデザイン性の高い店舗設計の提案を行うことで独立開業を目指す顧客から高い支持を得ており、新規開業顧客に加えて、大手チェーン店本部からの受注も獲得してまいりました。しかしながら、当第2四半期では前四半期に続いて人的リソースが不足していることと、前期比ではコロナ影響による一時的な特需の反動もあって、大きく前年実績を下回る結果となりました。

この結果、当事業の売上高は1,510,477千円（前年同期比26.9%減）、セグメント利益は64,579千円（前年同期比59.2%減）となりました。

#### その他周辺ソリューション事業

その他周辺ソリューション事業におきましては、ビューティサロンの開業と経営に必要なサポートとして、開業プロデュース、居抜き物件仲介、決済支援、集客支援、講習・アカデミー、損害保険、システム導入支援、店舗リース、M&A仲介、提携ビジネスカード、低コスト電力の供給等の各種ソリューションサービスを、各種専門WEBサイトと全国主要都市のショールームと法人営業部隊、各グループ会社を通して提供しております。また、物販事業、店舗設計事業との連動で顧客に対し、開業支援から経営支援まで幅広いサービスをワンストップで提供することが可能となっております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、各種サービスのうち、店舗リース、提携ビジネスカード、損害保険が堅調に伸長したことにより、当事業の売上高は730,142千円（前年同期比61.6%増）、セグメント利益は75,906千

円（前年同期比96.7%増）となっております。

## (2) 財政状態の分析

### （流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて2.8%増加し、8,447,179千円となりました。これは、主に売上債権及びたな卸資産の増加によるものであります。

### （固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて5.3%減少し、2,208,413千円となりました。これは、主に有形固定資産の減少によるものであります。

### （流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて1.4%増加し、3,981,967千円となりました。これは、主に仕入債務、未払法人税等及び賞与引当金の増加によるものであります。

### （固定負債）

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて19.4%減少し、927,232千円となりました。これは、主に長期借入金の減少によるものであります。

### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて5.1%増加し、5,746,392千円となりました。これは、主に配当金の支払に伴い利益剰余金の減少100,963千円があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が348,655千円増加したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ373,142千円減少し、2,297,847千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、22,951千円（前年同期は193,516千円の資金増加）となりました。これは、主に引当金及び仕入債務の増加があったものの、棚卸資産及び売上債権の増加があったことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果増加した資金は、61,667千円（前年同期は276,901千円の資金減少）となりました。これは、主に無形固定資産の取得及び敷金・保証金の差入れによる支出があったものの、子会社における有形固定資産の売却による収入があったことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、426,495千円（前年同期は45,327千円の資金増加）となりました。これは、借入債務の返済による支出及び配当金の支払による支出があったことによるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,319,953	26.2

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 金額は製造原価によっております。

仕入実績

当第2四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
物販事業	7,337,497	+18.4
その他周辺ソリューション事業	471,598	+77.0
合計	7,809,096	+20.8

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
2. 金額は仕入価格によっております。

受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,648,779	19.2	467,941	10.0

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		販売高(千円)		前年同四半期比(%)
	区分	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	
物販事業		8,958,438	10,403,972	+16.1
	理美容機器	3,981,086	4,333,188	+8.8
	化粧品等	4,691,448	5,790,488	+23.4
	金属スチール家具	285,904	280,295	2.0
店舗設計事業		2,065,589	1,510,477	26.9
その他周辺ソリューション事業		451,959	730,142	+61.6
合計		11,475,987	12,644,593	+10.2

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,160,000
計	21,160,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (2022年12月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,376,000	6,376,000	東京証券取引所 (プライム市場)	単元株式数は100株 であります。
計	6,376,000	6,376,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年8月1日～ 2022年10月31日		6,376,000		768,385		719,652

## (5) 【大株主の状況】

2022年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
野村 秀輝	東京都世田谷区	1,668,191	26.41
供田 修一	東京都世田谷区	647,842	10.26
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	416,200	6.59
GOLDMAN,SACHS & CO.REG(常任 代理人 ゴールドマン・サックス 証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA(港区 六本木6丁目10番1号)	317,876	5.03
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	中央区晴海1丁目8-12	312,900	4.95
高橋 慧	東京都新宿区	303,600	4.81
野村 貴久	東京都世田谷区	282,733	4.48
樺島 義明	東京都目黒区	243,889	3.86
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)SUB A/C NONTREATY(常任代理人 香港 上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK(東京都中央区日本橋3丁目11-1)	234,700	3.72
Goldman Sachs Bank Europe SE, Luxembourg Branch(常任代理 人 ゴールドマン・サックス証 券株式会社)	32-40 Boulevard Grande-Duchesse Charlotte, Luxembourg (港区六本木6丁目10番1号)	163,900	2.60
計	-	4,591,831	72.70

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 59,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,309,300	63,093	単元株式数は100株であります。権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 6,800	-	-
発行済株式総数	6,376,000	-	-
総株主の議決権	-	63,093	-

## 【自己株式等】

2022年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ビューティガレッジ	東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号	59,900	-	59,900	0.9
計		59,900	-	59,900	0.9

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当第2四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年8月1日から2022年10月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年5月1日から2022年10月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,686,739	2,308,497
受取手形及び売掛金	2,133,598	2,322,570
リース投資資産	146,279	192,102
営業投資有価証券	219,585	239,888
商品及び製品	2,320,436	2,638,750
仕掛品	119,720	216,205
前渡金	267,938	227,301
その他	332,030	318,779
貸倒引当金	11,268	16,915
流動資産合計	8,215,061	8,447,179
固定資産		
有形固定資産	495,768	326,902
無形固定資産		
ソフトウェア	368,140	352,180
のれん	361,218	312,649
その他	26,609	24,429
無形固定資産合計	755,968	689,259
投資その他の資産	1,081,331	1,192,251
固定資産合計	2,333,069	2,208,413
資産合計	10,548,130	10,655,593
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,637,216	1,729,701
短期借入金	15,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	418,252	363,772
未払金	383,073	261,598
未払法人税等	234,339	258,085
前受金	529,202	593,471
賞与引当金	75,516	265,405
その他	635,946	504,932
流動負債合計	3,928,547	3,981,967
固定負債		
長期借入金	810,852	558,286
退職給付に係る負債	6,919	5,988
契約負債	167,415	192,076
資産除去債務	60,877	60,880
その他	104,740	110,000
固定負債合計	1,150,805	927,232
負債合計	5,079,352	4,909,200
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	768,385	768,385
資本剰余金	780,534	781,513
利益剰余金	3,822,488	4,070,179
自己株式	104,307	95,065
株主資本合計	5,267,100	5,525,012
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,185	9,522
その他の包括利益累計額合計	3,185	9,522
非支配株主持分	198,492	211,857
純資産合計	5,468,778	5,746,392
負債純資産合計	10,548,130	10,655,593

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
売上高	11,475,987	12,644,593
売上原価	8,412,228	9,428,189
売上総利益	3,063,758	3,216,403
販売費及び一般管理費	1 2,477,879	1 2,706,543
営業利益	585,879	509,860
営業外収益		
受取利息及び配当金	37	507
為替差益	-	3,103
受取手数料	1,911	2,077
助成金収入	2,904	285
その他	1,907	5,516
営業外収益合計	6,760	11,490
営業外費用		
支払利息	3,501	2,450
為替差損	324	-
貸倒引当金繰入額	-	4,000
その他	4,982	3,320
営業外費用合計	8,807	9,770
経常利益	583,832	511,580
特別利益		
固定資産売却益	-	46,431
特別利益合計	-	46,431
特別損失		
減損損失	21,638	-
商品廃棄損	19,471	-
投資有価証券評価損	-	3,291
特別損失合計	41,110	3,291
税金等調整前四半期純利益	542,721	554,719
法人税、住民税及び事業税	231,043	252,163
法人税等調整額	24,535	57,805
法人税等合計	206,507	194,357
四半期純利益	336,213	360,362
非支配株主に帰属する四半期純利益	12,869	11,706
親会社株主に帰属する四半期純利益	323,344	348,655

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
四半期純利益	336,213	360,362
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	6,288	8,566
四半期包括利益	342,502	368,928
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	326,353	354,992
非支配株主に係る四半期包括利益	16,148	13,936

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	542,721	554,719
減価償却費	103,452	110,715
減損損失	21,638	-
商品廃棄損	19,471	-
のれん償却額	53,978	48,569
投資有価証券売却損益及び評価損益(は益)	-	3,291
引当金の増減額(は減少)	173,678	214,481
受取利息及び受取配当金	37	507
支払利息	3,501	2,450
固定資産除売却損益(は益)	766	47,067
売上債権の増減額(は増加)	84,150	196,971
棚卸資産の増減額(は増加)	429,680	478,105
仕入債務の増減額(は減少)	29,247	92,484
前渡金の増減額(は増加)	117,354	40,637
未払金の増減額(は減少)	85,266	119,244
前受金の増減額(は減少)	129,529	64,269
その他	199,685	83,552
小計	508,559	206,168
利息及び配当金の受取額	37	507
利息及び保証料の支払額	3,398	2,337
助成金の受取額	2,904	285
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	314,585	227,575
営業活動によるキャッシュ・フロー	193,516	22,951
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	11,400	11,100
定期預金の払戻による収入	17,700	16,200
有形固定資産の取得による支出	38,715	6,783
有形固定資産の売却による収入	94	187,636
無形固定資産の取得による支出	99,556	64,650
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	6,579	-
敷金保証金の差入による支出	141,125	65,025
その他	2,680	5,391
投資活動によるキャッシュ・フロー	276,901	61,667
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	5,000	10,000
長期借入れによる収入	420,000	-
長期借入金の返済による支出	282,216	307,046
リース債務の返済による支出	2,435	2,762
配当金の支払額	87,988	100,987
非支配株主への配当金の支払額	3,877	5,632
非支配株主からの払込みによる収入	16,396	-
自己株式の取得による支出	431	66
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	19,119	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	45,327	426,495
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,351	14,636
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	35,706	373,142
現金及び現金同等物の期首残高	2,572,182	2,670,989
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,536,475	1 2,297,847

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
給料手当	624,326千円	692,744千円
賞与引当金繰入額	144,916 "	173,861 "
貸倒引当金繰入額	2,372 "	3,047 "
製品保証引当金繰入額	1,023 "	460 "
株主優待引当金繰入額	1,950 "	1,950 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
現金及び預金	2,544,125 千円	2,308,497 千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	7,650 "	10,650 "
現金及び現金同等物	2,536,475 千円	2,297,847 千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月11日 取締役会決議	普通株式	88,078	14.00	2021年4月30日	2021年7月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月8日 取締役会決議	普通株式	100,963	16.00	2022年4月30日	2022年7月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リューション 事業	計		
売上高						
理美容機器・用品	3,981,086	-	-	3,981,086	-	3,981,086
化粧品等	4,691,448	-	-	4,691,448	-	4,691,448
金属スチール家具	285,904	-	-	285,904	-	285,904
その他	-	2,065,589	451,959	2,517,548	-	2,517,548
顧客との契約から生じる収益	8,958,438	2,065,589	451,959	11,475,987	-	11,475,987
外部顧客への売上高	8,958,438	2,065,589	451,959	11,475,987	-	11,475,987
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,158	2,351	2,337	23,847	23,847	-
計	8,977,597	2,067,940	454,296	11,499,834	23,847	11,475,987
セグメント利益	453,043	158,208	38,590	649,842	63,963	585,879

(注) 1. セグメント利益の調整額 63,963千円には、セグメント間取引消去 18,144千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 82,107千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「物販事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては21,638千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リューション 事業	計		
売上高						
理美容機器・用品	4,333,188	-	-	4,333,188	-	4,333,188
化粧品等	5,790,488	-	-	5,790,488	-	5,790,488
金属スチール家具	280,295	-	-	280,295	-	280,295
その他	-	1,510,477	730,142	2,240,620	-	2,240,620
顧客との契約から生じる収益	10,403,972	1,510,477	730,142	12,644,593	-	12,644,593
外部顧客への売上高	10,403,972	1,510,477	730,142	12,644,593	-	12,644,593
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,455	14,801	8,375	36,631	36,631	-
計	10,417,427	1,525,279	738,517	12,681,225	36,631	12,644,593
セグメント利益	460,341	64,579	75,906	600,827	90,967	509,860

(注) 1. セグメント利益の調整額 90,967千円には、セグメント間取引消去14,404千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 105,371千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
1株当たり四半期純利益金額	51.35円	55.23円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	323,344	348,655
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	323,344	348,655
普通株式の期中平均株式数(株)	6,297,065	6,312,724

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。



## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年12月9日

株式会社 ビューティガレッジ  
取締役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 藤 本 貴 子

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 張 本 青 波

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレッジの2022年5月1日から2023年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年8月1日から2022年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年5月1日から2022年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレッジ及び連結子会社の2022年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。  
監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。